

# 出澤 3個のメダル獲得

## 卓球

### 女子団体 シングルス 混合ダブルス

8月5日に閉幕したFISUワールドユニバーシティゲームズ(中国・成都)に専大から8人が出場し、日の丸を背負って奮闘した。

卓球競技には船場清華(文4・明德義塾高)と出澤杏佳(文3・大成女子高)が出場。卒業生の木村香純さん(令4経営)らとの女子団体で銀メダルを獲得した。

出澤は女子シングルスで銀、混合ダブルスでも銅と、合計3個のメダルを手にした。

出澤のシングルス決勝の相手は団体決勝でも対戦した中国の銭天一選手。相手の対策に対応しきれず、実力の差を感じた」と、世界ランキング6位の強敵に苦戦。フルゲームの白熱した展開となったが、勝利を逃した。「久しぶりの国際大会で、自分がどこまで通用するか不安だったが、海外の選手を相手に力を発揮できた。良い試合ができてよかった」と納得の様子。「多くの方々のサポートで、最後まで戦い抜



女子団体での銀メダル獲得に笑顔の専大勢。左から木村さん、出澤、船場

## フencing 齋藤 団体4位に貢献

フencingシング競技では、齋藤華南(経済3・秋田商高)が女子エペ団体に出場し、チームの4位入賞に貢献した。

準々決勝ではフencing発祥の国・フランスに勝利。準決勝のイタリア戦では、個人戦準優勝のサラ・マリア・コワルチク選手に勝利するなど健闘したが、決勝進出は逃した。メダル獲得はかなわなかったが、「世界で戦える手応えをつかめた。特にフランスを倒すことができたのは自信につながる。初めての経験も多く楽しむことができた」と充実した表情を見せた。(山口由結・文3)

## 水球 3人が出場 力出し切り8位

中山弘翔(経済4・埼玉栄高)・三谷有輝(経営4・金沢市立工高)・久保勝也(経営3・高知東高)の3人が出場した水球競

## FISUワールドユニバーシティゲームズ

くことができた。何よりもチームJAPANのみんなとたくさん思い出を作ることができ、楽しかった」と振り返った。(高橋奈月・文1)

技は8位に終わった。「力を出し切ったが、世界との差を感じた」と3人は口をそろえた。また、中山は「選手村で他国の選手と交流するなど、競技以外でもさまざまな体験ができた」と語った。(藤本珠莉・商3)

## 135kg未満級 スフバット 悔しい準V

専大からは7月の東日本学生相撲個人体重別選手権大会を勝ち抜いた4人が出場。東日本を制したアリユンエルデネ・スフバット(商3・鳥取城北高)に写真1が、135kg未満級で準優勝を果たした。

優勝を狙うスフバットは、順調に勝ち進み、準決勝では東洋大の亀井颯人選手と対戦。左手で相手の下手を取り、土俵際で押し倒して決勝進出を決めた。決勝は、日大の花岡真生選手に寄り倒して敗れ、行けると思ったが、相手の形になってしまった。大きな大会が続くが、次は負けたくない」と力強く語った。(竹田)



9月3日、千代田区・靖国神社相撲場

## 高原 フリー79kg級 3位 2年連続表彰台に

レスリングU20アジア選手権=7月15~20日、ヨルダン・アンマン

大(経済2・八戸工大第一高)が5位となった。(千葉里央・文2)

2人が準優勝

8月の全日本学生レスリング選手権大会では、男子のフリースタイル79kg級で高原崇陽、女子の50kg級で笠井梨瑚(文4・芦屋学園高)がともに準優勝となった。

また、今大会では次の5人が3位に入賞した。【男子フリー】57kg級・向田旭登(経営2・花咲徳栄高)▽125kg級・永野颯大【男子グレコ】60kg級・伊藤翔哉(文3・鳥栖工高)▽63kg級・渡部泰世(経済3・今治工高)▽72kg級・西田衛人(経営3・葦崎工高)

## インカレ 3位



パスを狙う中山 撮影=増田美海(文3)

昨年引き続き日本代表として出場した高原崇陽(経済2・高山西高)が、男子フリースタイル79kg級で3位を獲得した。この結果を受け高原は、「昨年の準優勝から順位を下げてしまったことが悔しいが、表彰台に立つことができた喜びもある。今回の反省を生かして次の大会で優勝を狙いたい」と話した。

早大、日大に勝利した準決勝で強豪・日大に敗戦。しかし3位決定戦では中大に17-5で圧勝し、3位となった。

日本学生選手権水泳競技大会水球競技は9月1~3日、神奈川県・横浜国際プール

主将の中山弘翔は、「これまで、インカレでは悔しい思いをしてきた。厳しい夏合宿を乗り越え、最後の年に3位という結果を残せてうれしい」と喜んだ。また、「来年度のシード権を後輩に残すことができてホッとしている」と安堵の表情を見せた。(藤本)

## 齋藤 悲願の初優勝



ゴール直後、歓喜の雄たけびを上げた齋藤 撮影=相川直輝(文4)

スタートで良好な滑り出しを見せると、50mを過ぎたあたりから頭一つ抜けて出した。課題としていた中盤以降も、そのままスピードを維持して他の選手を寄せ付けず、見事に1位でフィニッシュした。

昨年は4位で表彰台に一步届かなかった大会で、悲願の初優勝。レースを終えて齋藤は「学生最高の舞台であるインカレに向けてピークを合わせてきた。バッチリはまって良かった」と振り返った。また、競技生活最後の大会として挑む日本選手権について「体を鍛え直して日本を代表する選手たちに競り勝ちたい」とラストレースに力を込める。(竹田一爽・文2)

## 新人インカレ準優勝

全日本大学バスケットボール新人戦は7月10~16日、渋谷区・代々木第二体育館ほか

準決勝で宿敵・日大に勝利した専大は、決勝で筑波大と激突した。積極的な攻撃で第3Qまでリードを保つも、第4Qに猛攻を浴びて66-73で惜敗。初開催の新人インカレで初代王者を目指したが、準優勝で幕を閉じた。

個人では、ジョボ・モハメド(商1・高知中央高)が得点王、リバウンダー王、敢闘賞を受賞。高橋裕心(経済2・能代科

学技術高)が優秀選手賞を獲得した。

高橋は、「後半は筑波大の圧に負けてしまった。ディフェンスとリバウンドの差が今日の試合を分けた」と決勝の敗因を述べ、「2位という結果はうれしい部分も悔しい部分もある」と複雑な心境を吐露した。また、開幕した関東大学リーグ戦についても「優勝して全日本大

学選手権につなげたい」と力強く語った。(鶴本あい・法3)写真(鶴本あい・法3)写真

和田 4位

猛チャージ及ばず

日本学生ゴルフ選手権競技は8月22~25日、鳥取県・大山ゴルフクラブ

和田歩(経営4・杉並学院高)が、トータル14アンダーで4位となった。混戦となった今大会。雷雲接近のため中断するなど各選手が苦戦したが、最終日に7アンダーの猛チャージ。トップと4打差まで迫ったが、あと一步届かなかった。

専大スポーツ

専大スポーツ公式WEB

掲載記事を含む全文はコチラ↑

Twitter @sensuponow

Instagram sensuponow

No. 443

専大スポーツ 編集部 公式WEB

掲載記事を含む全文はコチラ↑

Twitter @sensuponow

Instagram sensuponow

全日本学生カヌースプリント選手権大会は8月23~27日、江東区・海の森水上競技場

カヤックシングル(K1)200m決勝に進んだ齋藤慎太郎(経済4・寒河江高)は「圧倒的な自信がある」という得意の



得点王モハメドの豪快なホースハンドダンク